

皆様のお陰で神田マタニティクリニックは10周年を無事に迎えることができました。

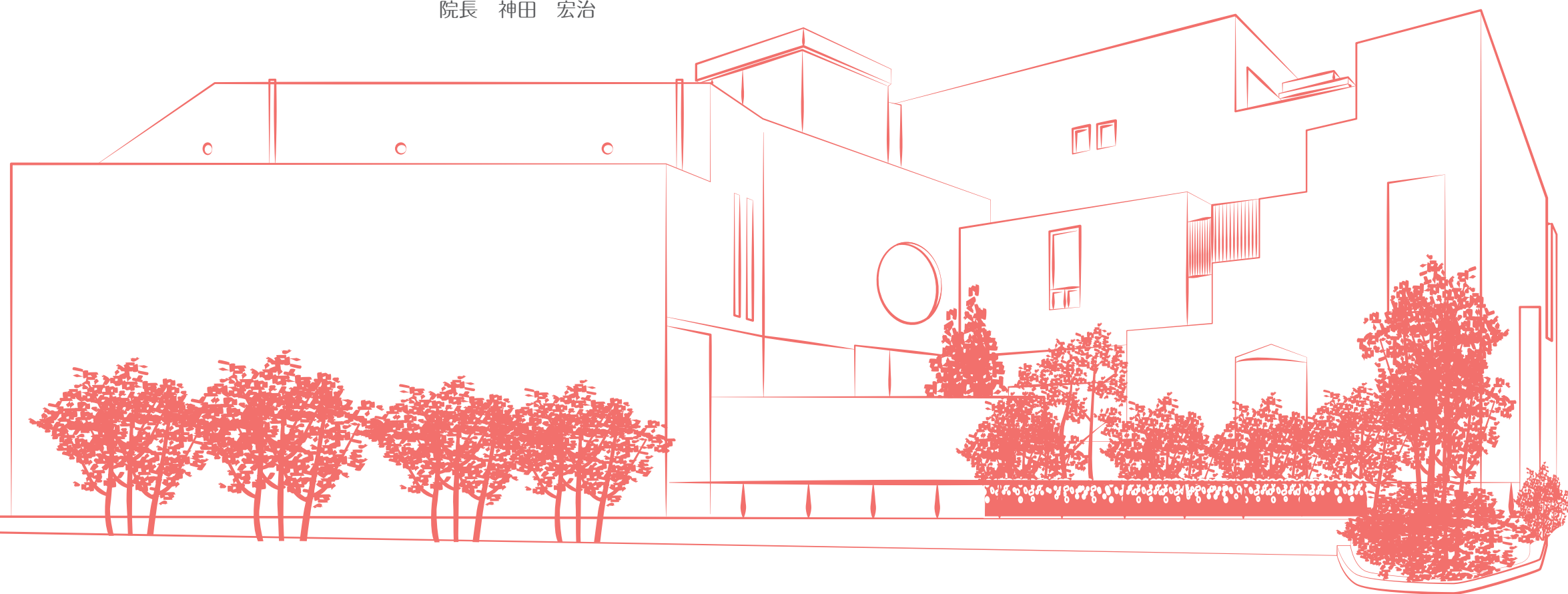
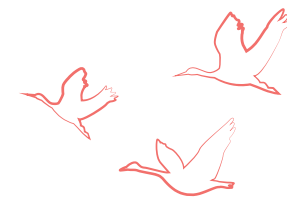
平成18年6月、当院の前身である医療法人加藤産婦人科に、私が院長として着任し、翌年平成19年3月に医療法人琢生会神田マタニティクリニックと改称いたしました。それから10周年を迎え、その間に無事、8000人以上のベビーの誕生を迎えることができました。

前身からの30年間では累計2万人を超えるベビーの誕生に恵まれました。

最近では、当院で出生した赤ちゃんがお母さんになって、2世代にわたり出産をされることも増えてまいりました。

これもひとえに、当院を選んでいただいた患者様やご家族、支えてくれましたスタッフ、関係者や近隣病院の皆様のおかげであると深く感謝いたします。

院長 神田 宏治



患者様とともに歩んだ大切な10年間の道のり

「産科医療を続けることは大変ですね」とよく言われます。確かに年間900人前後の分娩に直接あるいは責任者として対応することは、産科医の中でも激務を担う立場にいます。しかし実際には意外と私自身はそれほど苦にならず、10年間過ごせた感があります。周産期医療の特徴は、やりがいを実感できることです。ゴールのない目標に向かうことは辛いことですが、緊張を強いられつつも出産に達すると、その瞬間から関わる全ての人と生命誕生の得難き喜びを共有できま

す。頂上までの道のりが大変であるほど、登山家の得る達成感が高まるように、お産が大変であるほど妊婦様の報われる思いも大きく、その喜びは無限に広がります。最高の喜びをそばで共有できることは、周産期医療に関わる者の特権であり、それまでの苦労が全て吹き飛ばす上に、次の仕事への活力がどんどん湧いてきます。私はむしろこの上ないやりがいを実感させてもらって、この仕事を続けさせてもらえることに感謝しております。

また皆様が無事に当院で出産できるのは、我々の努力だけではなく、周囲の多くの優れた高次医療機関様にバックアップしていただいている環境があってこそだということは言うまでもありません。この場を借りて、近隣の先生、医療スタッフには心より感謝申し上げます。当院自体は常勤医師4人に加えて、本院と分院で10人以上の非常勤医師に支えてもらっています。また、多くのスタッフによる充実した体制や近隣の病院のおかげで、この10年間産科にはつきものの難

所を未然に察知して回避したり、突然の嵐のような状況に出くわしても無事に乗り切ることができており、院長として心より感謝しております。特に昼夜を問わない産科医療において、夜通し陣痛に耐える妊婦様に寄り添う宿直勤務の助産師、看護師、病棟助手や、朝4時から朝食を作る厨房スタッフの姿は、命がけで患者様を守るプロフェッショナルとして眩しく映り、敬意を感じるとともに院長として誇らしく感じます。

院長 神田宏治

スタッフがデザインした トートバックの紹介



これまでの当院の歩み

■ 1986年8月
加藤産婦人科医院 開設

■ 2001年11月
西館増築

■ 2006年6月
神田院長就任

■ 2007年3月
医療法人琢生会
神田マタニティクリニックに改称

■ 2007年7月
シャトルバス運行開始

■ 2007年11月
マタニティサロン
「リデュリス」開設

■ 2010年
吹田市江の木町に分院
開設(婦人科)

■ 2011年
増床工事(フロアの2/3を全面改築)
エレベータを設置し、8床から12床に増床

■ 2016年
さい帯血バンクの提携産科施設の認定を受ける



妊婦健診



医師による妊婦健診と助産師による外来(前期、後期)、妊婦教室(前中期、後期)により、綿密な妊娠管理と、生活習慣の指導による予防医学の実践を手厚く行ないます。予定日が確定してから7ヶ月(24週)までは4週毎、10ヶ月(36週)までは2週毎、36週以降は1週毎と定期的に健診します。妊娠は病気ではありませんが、妊娠中特有のトラブルが発症することもあり、無症状の方を対象として、早期に小さな異常を察知できるよう定期的に健診を受けていただいています。当院の誇る最新の超音波検査機を用い、常勤医師4人と非常勤医師3人専門資格を有する臨床検査技師3人のチームで、胎児の先天性心疾患などの救命に関わる病気の診断をしっかりとまいります。また、近年注目されている染色体異常などの遺伝疾患に対する胎児診断においてもエキスパートである臨床遺伝専門医(神田院長)が担当いたします。

妊婦教室



前中期母親教室(院長:100分、助産師30分、栄養士30分)
妊娠中に必要な基本的知識について学びます。妊娠、出産は病気ではなく、正常な生命現象のクライマックスです。では、なぜ出産が時に危険な場合があり、それはどのようにして引き起こされるのでしょうか？我々をとりまく環境の変化に答えはあります。予防できることをしっかり予防して、持ち備えているはずの繁殖能力が十分に発揮できるような環境作りについて説明いたします。とくに命に関わる病気である妊娠高血圧症候群に関して、その予防法と知っておくべき症状について解説いたします。



後期母親教室(院長:120分、助産師40分)
分娩に向けての生活、入院のタイミング、分娩の進行、呼吸法などについて説明いたします。入院のタイミングは一般的に①陣痛あるいは②破水ですが、皆様にとっては初めてのことで、それぞれをわかりやすく、かつ医学的に詳細に解説いたします。入院してからは、呼吸法がポイントです。進行するお産の状況に応じた呼吸法について、なぜそうする必要があるのであるのか？覚えておくことはどこまで？についてわかりやすく説明いたします。安産と難産の分岐点と、どこまで頑張らないといけないかを知り、わからないことによる不安や恐怖を少しでも解消し、積極的に出産に望めるようにサポートいたします。

助産師外来

助産師外来(前期、中期)

「仕事しながら大丈夫なの?」「どこまで気をつければいいの?」など、皆さまそれぞれの生活環境を踏まえ、妊娠中の生活について不安が取り除かれるようマンツーマンでじっくり時間をかけて相談させていただきます。

助産師外来(後期)

分娩に向けて準備することや、入院までの流れ、入院中の生活、授乳をはじめとする産後の育児に関する疑問などにじっくり時間をかけてお話しいたします。

産後回復プログラム



当院の誇る産後回復プログラム

- 多彩なメニューによる食事
- 産後エステ
フェイシャルエステ、デコルテマッサージにより分娩でお疲れの心身をリフレッシュしていただきます。
- 深部EMSマシンによる筋肉の賦活プログラム
妊娠の結果衰えてしまった筋肉を再度蘇らせ早期に動かせるようするために、EMSという電気刺激を行うマシンにより刺激を与えて、筋収縮を促します。プロアスリート用に開発されたEMSマシンは、より深くまで作用します。
- ボディコンディショニング (有料、希望者のみ)
専用マシンと専門トレーナーにより産後の骨盤周囲筋肉のケアを行います。妊娠後期には骨盤周囲の筋肉には疲労が蓄積するようになります。また分娩で怒責をかけることやベビーが産道を通ることにより、筋肉の疲労はピークに達しますが、スムーズな回復を促すべく、電動コンディショニングマシンとトレーナーの施術により筋肉をほぐします。

産後健診

助産師、産婦人科医と小児科医による2週間健診、1ヶ月健診により健やかな赤ちゃんの成長と発育を見守ります。退院直後においても、ベビーの体重や黄疸の経過を見る

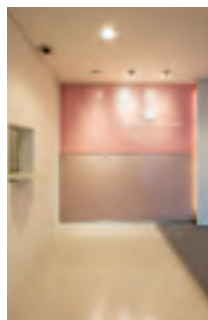
ために通院していただくことがあります。授乳の指導、家族計画、婦人科検診についても長期的にフォローいたします。

3ヶ月同窓会

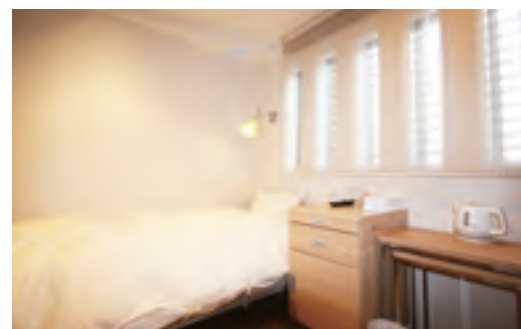
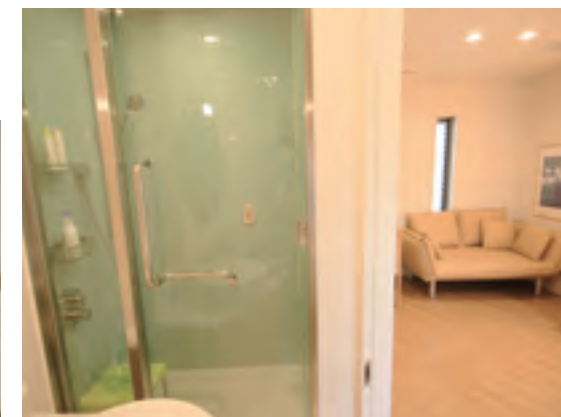


「3ヶ月同窓会」とはママたちの子育ての不安感や孤独感を緩和することを目的としています。専門の講師の下、スクラップブック体験をしていただきながら、わいわいおしゃべりタイム。手はしっかりと可愛いわが子のアルバムを作りながら、お口は同じ月齢同士ならではの近況報告や情報交換など、話が尽きません。看護師も同席しておりますのでお悩み相談ももちろんOK!ご参加いただいたみなさまから、「久しぶりにリフレッシュできた」「いろいろな悩みを相談できてよかった」など、嬉しいお声をいただいております。ママたちのコミュニケーション作りどうぞご利用ください。

一人ひとりの“つながり”を大切にした 院内設備・施設が充実しています。



分娩は一般的に15%が異常分娩で、85%が正常分娩と言われています。
異常分娩とは何らかの医療を必要とするケースのことをいいます。
当院では、緊急帝王切開を要するような緊急事態にも素早く対応できる
医療体制を24時間保持し、また高次医療機関との密接な連携により、
安心安全な医療を提供いたします。
一方、通常の分娩の方におかれましては、喜びの時間を充分に感じていただけるよう、
心のこもったサービスを提供しております。



旬の素材を確かな技術で

山深い島国である日本は、四季折々の豊富な天然の食材に恵まれています。
添加物や人工調味料を極力おさえて、新鮮な食材をご用意して提供いたします。



手を抜かない料理とは？
当院では下さるえに手を抜くことはいたしません。多くの医療施設では外部の給食業者が料理を担当しますので、食材や手間などで経済効率を重視した調理になる傾向があります。当院の厨房は全て自院のスタッフであり、10人余りの入院患者さんに対し6人の調理人が在籍し、朝、昼、晩一生懸命に料理をします。妥協をしない職人魂で、加工調味料は極力控え、和食ではかつお節や昆布だし、洋食ではフォンドヴォーなど、いつも美味しそうな香りで厨房はつまれています。



海外の首脳、要人をお迎えする日本を代表する料亭で半世紀近くの経験を積み、料理長をされた福岡氏により千年以上にわたって培われた和食の伝統技法を発揮していただきます。



料理長
福岡 勲

採用面接時に、院長より自分の料理に対する期待の言葉をいただき、それに是非応えたいと思い入職しました。自分の仕事に対しても深い理解をいただき、料理に専念できる環境でありがたく思っています。その期待に応え、またそれ以上とっていただける料理を日々精進し、進化していけるように作っていきたいと思います。このことにより、患者様が当院で出産して良かったと思える1つの要因になることができたいと思います。



和食主任
吉田 昇景

下膳の時に厨房宛のお礼カードをいただくことがあり、「毎日おいしい食事をありがとうございます。退院してから子育て頑張ります」という内容にこちらも頑張ろうと励みになります。病院附属のレストラン(軽食・喫茶)を常設出来ればと思います。外来の付き添いの方や、入院患者様のお見舞いに来られた方の休憩や軽食に良いと思っています。



妥協しない手作り食事による産後回復

当院の専属スタッフが、旬の素材を選びすぐり、高い技術で時間をかけて惜しみなく調理したお料理は、分娩で頑張ったお母様にとって心身を癒すとともに、子育てへの活力を与えてくれることでしょう。



ホテルで修行を積んだ洋食担当
紀伊野シェフ、中華担当上別府
シェフにより料理します。



メインシェフ
紀伊野 隆

42年間コックをしてきて、産婦人科の料理を作るのは24年くらいになりますが、何よりも嬉しいのは、妊婦さんに「とても美味しかったです」というメッセージをいただいた時です。これ以上の活力になることはありません。



松本 孝子

私は厨房に携わっていますので、直接患者様とお会いすることは少ないのですが、配膳の時に患者様やご家族の方が「わあー凄いなあー噂通りやな!」と料理に満足して喜んでいただいたことを覚えています。満足していただけるお料理を提供できるのは、ここでの経験と努力もありますが、その料理に打ち込める環境があってこそ成り立っているのだと感謝しています。

当院のお料理を作る調理師は外部の業者ではなく、全て当院の専属スタッフであり、仕入れ、献立から調理に至るまで院長の思いが込められており、決して妥協することはありません。



中華主任
上別府 誠作

患者様から「美味しかったです」と言葉掛けてもらうと、頑張った良かったと思います。これからも調理を皆で力を合わせて、美味しいものを出していきたいと思っています。1人でも多くの患者様に足を運んでもらえるように、力を合わせて頑張ります。一人ひとりの患者様に対する意識が大事だと思います。美味しい料理を出し、皆がプロとして自分に与えられた仕事をしていく。そうしたら結果はついてくると思います。



産科医療補償制度と常位胎盤早期剥離について

産科医療補償制度が2009年より始まり、約10年が経過しました。当院でもその理念に賛同して発足当初より登録、参加しております。約1/1000の確率で新生児脳性麻痺がおきると言われており、その子供達の療育にかかる費用を補助しようとする制度です。

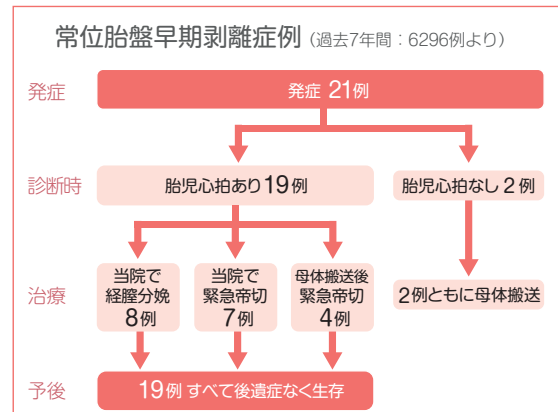
当院の10年間の8000例以上の分娩における中で、分娩時のストレスが原因で脳性麻痺になった子供は幸いありませんでした。このことは、当院が比較的风险の少ない方が多いことを差し引いても素晴らしい成績と思われるます。

分娩時のストレスが原因ではなく、時期は不明ながら溶連菌に感染したことにより脳性麻痺になった症例がただ1例のみありました。元気に出生し元気に退院したので分娩時の感染は疑われない状況でしたが、生後3週間以上経ってから急にぐったりするなどの症状を認め溶連菌による髄膜炎を発症し脳性麻痺となりました。遅発性のGBS感染症の疑いという非常に珍しいケースであり、現在の医学では有効な予防法は確立されておりません。最近では基金側に余裕があると言われており、こうした感染の時期が特定できないような症例に対しても産科医療補償制度が適用されています。さらに、脳性麻痺発生の原因として胎児機能不全に次いで最も多いと言われる常位胎盤早期剥離において当院での発生について検討してみました。

常位胎盤早期剥離は約500～700分の1位の確率で起こる疾患で、発症すると胎盤の循環が保ちにくくなり胎児が酸素不足に陥り死亡、脳性麻痺などの障害が起こります。なりやすい患者背景は、妊娠高血圧を筆頭に体重増加、高齢、不妊治療歴、糖尿病、腎疾患合併などが挙げられます。注意すべきなのはこれら背景が全くない方でも起こりえることです。母体においては出血が止まりにくくなるために輸血、子宮摘出を要することがあり、最悪は死亡するケースがあると言われています。

当院でもここ7年を振り返って、常位胎盤早期剥離21例を認めました。表の如く来院した時にはすでに胎児が死亡していた2例、分娩直前に発症し当院で経膈分娩可能であった8例、帝王切開を緊急で必要とする11例の内訳でした。

11例のうち、来院時すでに心拍の状況が悪い7例に対しては、すぐに当院で帝王切開を実施し、母児共に後遺症なく助かっておられます。また母体搬送をした4例は母体搬送先で帝王切開を受けられましたが、4例すべて母児共に後遺症はありませんでした。



このように、最も対応の難しいと言われる常位胎盤早期剥離についても当院が好成績を残しているのは幾つかの理由が考えられます。第一に総合周産期センターとなる高次施設が近隣に多いことが挙げられます。大阪大学附属病院、国立循環器病研究センター、吹田済生会病院、淀川キリスト教病院、市立豊中病院などに救急車で15分ほどの距離に立地しています。それらの病院との連携により、危機的状況を無事に乗り切ってきており、搬送先の先生方への感謝の念は絶えることはありません。

次に、当院の特性として当院で帝王切開が必要な局面になってからの対応の早さが挙げられると思われます。常に医師が常駐しており、複数の医師により対応する体制を整えております。さらに、この疾患特有の予後を左右する分岐点としては、いかに患者さん本人が発症してから早期に医療機関に連絡・受診できるかにかかっているとされます。我々、医療サイドが一分一秒を争って治療をしても家で患者さんがゆっくりしては功を奏しません。

そのために当院ができることとして、患者様への十分な情報提供に力を注いでおり、すなわち患者教育として、約3時間の妊婦教室を前・中期と後期で計2回行っております。そのうち半分以上は院長自らが講義をしています。医師自らがこれほどの時間を割いて講義をする分娩施設は他施設でも例を見ませんが、疾患予防、早期治療の十分な情報提供のためには重要であると考えております。その甲斐あって、今回の後方視的検討でも患者様の速やかな連絡・受診により常位胎盤早期剥離発症例において良好な結果を得ていると考えております。

臍帯血バンク

さい帯血とは、お母さんと赤ちゃんを結ぶさい帯(へその緒)と胎盤の中に残った血液のことです。

さい帯血の提供においては、出産後に本来ならそのまま捨てられてしまうさい帯と胎盤から残っている血液を集めるので、赤ちゃんとお母さんに痛みは全くなく、また出産の経過にも影響ありません。提供者から採取したさい帯血をさい帯血バンクで量、濃度、質をチェックした後に保存し、必要とする患者さんと白血球の型(HLA)が一致すれば移植を行います。

当院は2016年5月より依頼を受けて公的なさい帯血バンクの協力認定機関となりました。

公的さい帯血バンクは献血事業と同じく日本赤十字社が管轄しています。認定機関になるためには厳しい審査と毎年の立ち入り検査をパスすることが必要になります。さい帯血の提供は献血と同じく全くのボランティアです。民間のさい帯血バンクも一時流行りましたが、保管状態の信頼性の問題や会社の倒産等で現在は廃れてきています。日本産婦人科学会でも民間ではなく公的バンクを薦めています。公的バンクは厳しい基準により運営されているため、申し込んで頂いてもバンク保存に至るのは1～2割程度で、合併症、渡航歴や、採取された血液量、血液濃度、細胞数、凝固状態により8～9割ほどが除外されてしまいます。

現在、近畿さい帯血バンクにおいては、別表の通り17施設が認定施設になっています。吹田市には8つの分娩施設がありますが、公的なさい帯血バンクの協力認定機関は当院だけであり、隣の豊中市では市立豊中病院だけです。それらの施設での採取状況が近畿さい帯血バンクのホームページでも公開されています。(下記図参照) 当院はおかげさまで採取数や保存数が17施設中、1、2位を争う好成績を残しています。このことは第一にたくさんの妊婦様から厚い善意を頂いていること、つぎに私共医療スタッフが高い技術を発揮して大切なさい帯血を無駄にしないよう応えられていることの賜物であると、感謝及びご報告申し上げる次第です。こうした社会貢献、皆様からの貴重なボランティア、つまり『幸せのおすそ分け』により、大切な命がどこかで助かっていることを共に喜びたいと思っています。

http://www.kk.bbc.jrc.or.jp/saitai_kinki/saitai_kinkisaitai.files/20170831_saisyu_hozon.pdf

下記のデータは近畿さい帯血バンクのHPで一般に公開されているものです。

さい帯血の採取・保存状況 (2017年8月31日現在)

	採取数	保存数		採取数	保存数
大阪府	神田マタニティクリニック	342	京都府	京都第一赤十字病院	85
	Mクリニック	339		京都第二赤十字病院	112
	T病院	316		A病院	316
	B病院	294		済生会京都府病院	39
	H病院	247		3施設の合計	340
	大阪母子医療センター	162	滋賀県 奈良県		32
	K会病院	124			
	市立豊中病院	119			
	K病院	99			
	M病院	43			

※近畿さい帯血バンクのHPから引用



大阪医科大学産婦人科学教室 教授 大道 正英 医師

開業10周年誠におめでとうございます。個人的のみならず大阪医科大学産婦人科学教室並びに同門会三曜会を代表して、お祝いを申し上げます。神田先生との繋がりはある種運命的なものを感じています。私が、母校である大阪医科大学の教授に就任した際に最初にお祝いのお花をいただいたのに端を発します。それから、非常勤講師として週1回子宮鏡外来に手伝いに来ていただきました。今では、同門会三曜会の次代を担う存在として頑張っていたいており感謝しております。産科診療を安全に運営するのは並大抵のことではありません。その中で、体制を整備して、確実に分娩件数を伸ばされており、感銘を受けると同時に非常に嬉しく思います。今後とも健康に留意され、ご発展をされることを祈念しております。



医師 大橋 敦

開院10周年おめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。私は神田マタニティクリニックの前身である加藤産婦人科から新生児健診を担当させて頂いておりますので、15年近くお世話になっております。開業医として一人何役もこなして働いておられる院長の姿に深く感銘を受けております。これからも、妊婦さんが頼れる地域の分娩施設として頑張ってください。今後のご発展と皆様のご活躍をお祈り致します。

大阪大学産婦人科 学内講師 馬淵 誠士 医師

この度は、開院10周年誠におめでとうございます。今日の発展・隆盛を見られましたことは、神田先生をはじめスタッフ各位のお人柄、責任感、また努力のたまものと推察いたします。また当直医師への細やかな気遣い、万全のサポート体制には本当に感謝しております。神田先生は、クリニックだけでなく学会でもご活躍される姿を目にすることも多く、お忙しい日々と推察いたしますが、ご自身のお身体にもご留意くださいませ。ますますのご発展を祈念しております。引き続きご指導のほどをよろしく願いいたします。



大阪大学産婦人科 味村 和哉 医師

この度は10周年誠におめでとうございます。貴院には毎週の当直だけでなく、大学診療においても貴重な症例をいつもご紹介いただきありがとうございます。また私の2人の息子も貴院にて帝王切開させていただきました。神田院長はじめ先生方の正確な診断、助産師さん達の分娩管理の丁寧さにいつも感心しています。この場を借りてお礼申し上げます。また、「妊婦の家庭血圧の正常値を作成する」という大学の多施設共同研究にも快く協力いただき大変助かっております。将来的には、高血圧を合併する多くの妊婦に役立つものと思っています。今後ともお世話になると思いますので、貴院のますますの発展を祈念しております。



医師 山内 壮作

開院10周年おめでとうございます。約3年前よりこちらに来ていますが、いつも多くのお母様とベビーで賑わっており、小児科専門医としても明日への活力が満たされます。今後ともベビー達の健やかなる成長を見守ってまいります。今後とも発展されますようお祈り申し上げます。

箕面市立病院 舟田 里奈 医師

開院10周年、誠におめでとうございます。いつも新生児室にはたくさんの赤ちゃんが並び、その可愛い寝顔をみては癒され、産科医としての原点を思い出します。院内に飾られている四季に応じた生花のアレンジメントも、勤務に合う時の楽しみの一つです。院内が生き生きと生命にあふれ、元気をいただいています。これからも、世代をつないで、沢山の新しい命が神田マタニティクリニックから誕生しますことを、心よりお祈りいたします。



医師 中村 知子

神田先生、スタッフの皆様、10周年誠におめでとうございます。このような晴れ舞台に、私如き者まで登場させていただき大変ありがとうございます。私は二年半前より、毎週金曜午後に予防接種を担当しております。小さな子供相手に鬼のように、でも愛情込めて、針を刺しまくりますので今後ともよろしく願いいたします。ちなみに、私は孫二人持つ正真正銘の鬼(?)婆アでございます。



大阪府済生会中津病院産婦人科 中村 幸司 医師

神田マタニティクリニック設立10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。ご縁があり4年前、阪大産婦人科の病棟医の頃から当直医をしておりますが、以来院長先生の手厚いサポートや優秀なスタッフの皆様のお蔭で安心して勤務させて頂いています。また妻の出産では院長先生始め皆様にご世話になり有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。末筆ながら、貴院の今後の一層のご発展を祈念しております。



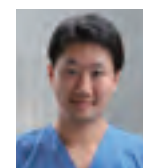
大阪大学医学部附属病院 黒田 浩正 医師

創立10周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。神田先生に初めてお会いしたときのことはよく覚えています。婦人科腫瘍界の名医、西村隆一郎先生の祝賀会とき、神田先生から周産期医療に対する熱い情熱と母子に対する思いやりを強く感じたことは今でも思い出されます。それから3年後、非常勤医として温かく迎えていただき、神田先生やスタッフの皆さんの温かく思いやりのある姿勢と安心安全を重視した医療に対する姿勢に日々感銘を受けております。妊婦の夫としてもお世話になり、医師と違った立場からも神田マタニティクリニックの居心地の良さを実感させていただきました。10周年を迎えられたことは、目指された理想の産科クリニックが改めて実証されたことのように思います。今後多くの元気な命がこのクリニックで誕生し、益々クリニックが発展していくことを祈念しております。



医師 金 南孝

当直医として丸6年あまり勤めさせていただいております。神田先生の周産期医療に対する安全意識の高さにはつくづく感服しております。初めに感じたことは、医療安全に対する準備が非常に充実しているということでした。分娩時に使用する器械の豊富さはどのようなお産にも対応できるように揃っておりまして、帝王切開分娩への速やかな移行が可能な分娩室の配置に大いに安心したことを今でも覚えております。近隣に大阪大学を始めとする周産期センターを有する施設が数箇所存在し、万一の母体搬送時にも速やかに連携できることは非常にありがたいことでした。これからも引き続き安全にお産ができる施設として地域の方々に信頼され続けることを願っております。



医師 山田 光泰

10周年おめでとうございます。3年前より分院外来、本院当直を担当させていただいております。大学病院を大幅に上回る分娩件数を取り扱われておりながら、年々増加傾向にあることから日々いかに適確な管理をされ、患者様にとって居心地の良い空間となるよう努力されているかが伺えます。スタッフの皆さんも非常に優秀で、緊急時にはすぐに神田先生が駆けつけてくださり、当直医としてとても安心感の強いクリニックです。将来結婚し、幸運にも子供を授かることができれば是非お世話になりたいと思っています。今後とも益々のご発展をお祈りしています。

大阪府立母子センター 金川 武司 先生

神田マタニティクリニック10周年に寄せて

開院10周年おめでとうございます。私は、2012年から約3年間当直勤務として、神田先生にお世話になりました。当直中は、困ったことがあればすぐに、駆け付けてくださり安心できました。神田先生は、医学的知識のupdateにも研鑽されていて、研修会でよくお見かけし、勉強熱心な先生と感心しておりました。今後、母子ともに元気に退院できるよう妊婦・胎児をサポートして頂き、20周年に向けてさらに飛躍されることを祈念しています。

川崎医科大学 村田 卓也 先生

10周年誠におめでとうございます

私は設立当初から非常勤医師として勤務させていただきました。お産が多く、活気溢れるクリニックでした。今後とも益々発展され、地域に愛されるクリニックであることを祈念いたします。

大阪大学大学院医学系研究科 島津 由紀子 先生

神田マタニティクリニック10周年おめでとうございます。週1回の外来を約3年間担当させていただきました。スタッフの方も明るく院長先生のサポートもしっかりあり、とても働きやすかったです。また個人的にも長男の妊娠出産に際しては大変お世話になりありがとうございました。入院生活は快適で、自慢の料理も堪能できました。今後とも患者さんから信頼され、適切な医療を提供できるクリニックとしてますます発展されることをお祈り申し上げます。



加藤レディースクリニック
加藤 明 先生
(当法人を設立された先生です)

神田マタニティクリニックの 10周年おめでとうございます

私は昭和61年に加藤産婦人科を開業し、10年前に神田先生に診療を引き継いでいただきました。人生にはターニングポイントが何度かあると思いますが、先生に出会い医院を継承していただいたことは私にとって最も大きく、幸運な転機のひとつです。神田先生に初めて会った時の印象、先生の作られた計画書の素晴らしさを拝見し、ご家族ともお会いして私は神田先生にお任せしようと決心しました。この10年間、次々と診療を充実、拡大されてこられました。私事になりますが、先日長女の出産をお願いいたしました。大変お世話になりました。その時、診療水準の高さとスタッフはじめ医院全体の充実ぶりに目を見張りました。先生の持ち前のバイタリティーで今後ますますご発展されますことをお祈りいたします。

西田ヒロ子クリニック **西田 ヒロ子 先生** 開院10周年、 おめでとうございます

神田先生とのお付き合いは、小学校時代からと約半世紀近くになります。加藤産婦人科からの承継時にもご縁があり、立ち上げから関わらせていただいた身としましては「10周年」とはなんともアツと言う間であつたと改めて感じております。江坂の地においては産婦人科と言えば、「神田マタニティクリニック」とまず一番に名前の挙がる病院です。そちらで私自身も勤務させていただいておりましたこと、独立した今でも誇りに思っております。今後も、「神田マタニティクリニック」と共に江坂の女性の頼れる存在として私自身も努力していきたいと思っております。「神田マタニティクリニック」の今後ますますの発展を祈念しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いのお言葉

国立循環器病研究センター 周産期・婦人科部 部長 **吉松 淳 先生**

神田マタニティクリニックが開院して10周年、誠に素晴らしいことと心よりお慶び申し上げます。

神田宏治院長先生はじめスタッフの皆様が地域の分娩を守ってこられたことは患者様やそのご家族の皆様にとって、本当に心強いことであつたと思います。国立循環器病研究センターでも患者様をお引き受けすることがありますが、診療しておりますと患者様からのクリニックに対する絶大な信頼を感じることが多々あります。これもひとえに神田先生やスタッフの皆様の誠実な診療の結果であらうと思います。そして、それは神田先生の診療レベルの高さに裏打ちされたものです。総肺静脈還流異常の胎児を2例ご紹介いただいたことがあるのですが、その胎内診断は極めて難しく、胎内診断でご紹介いただくことはとても稀です。高い診断技術には感服いたしました。我々も先生を見倣って診療を続けてまいります。

これからも末永くご活躍されることを確信しております。

近隣の先生方より

国立循環器病研究センター 小児循環器部特任部長 小児循環器集中治療室医長併任 **黒寄 健一 先生**

神田マタニティクリニックがこのたび開院10周年の記念すべき日を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

我々小児循環器科は周産期科と協力して心臓病の赤ちゃんの診断と治療に取り組んでいますが、神田宏治院長はじめ貴院スタッフによる胎児心臓病検査にはいつも感心させられます。これまで単心室症、大動脈縮窄症、エプスタイン病などの重症心疾患、特に胎児診断が難しい総肺静脈還流異常も正確に診断してくださったおかげで、たくさんの赤ちゃんが命をつなぐことができました。

今後も地域の産婦人科医療の中核として、妊婦さんと赤ちゃんを支えていただくよう、さらなるご発展とご活躍を期待いたします。



産婦人科医の父の背中を見て、同じ仕事につくようになりました。大学生になる一卵性の双子の父です。産婦人科医としてのスタート時は、高度な手術を習得することを志し、婦人科腫瘍を専門としておりました。やがて我が子を授かる際に、双胎特有の困難な妊娠経過を経験してから、産科医療により深く興味を持ち天職として志すようになりました。

2006年に当院の前身である医療法人加藤産婦人科の院長として着任し、2007年に医療法人琢生会神田マタニティクリニックと改称いたしました。それから10年、皆様のおかげで無事に節目を迎えることができました。その間、8000人以上の小さな命に巡り会えて、無事に退院して行かれたことが我々にとって一番の喜びであり、誇りに思っています。激務と言われる周産期医療に携わってきましたが、皆様の幸せを近くで感じることで、私の仕事への情熱はいつも満たされています。

【経歴】

大阪医科大学 1995年卒
医師免許取得 1995年
医学博士
母体保護法指定医
日本産科婦人科学会専門医
臨床遺伝専門医
日本臨床細胞学会細胞診専門医
大阪医科大学臨床教育准教授

大阪医科大学附属病院産婦人科で臨床研修開始
大阪医科大学附属病院麻酔科で研修6ヶ月
勤務病院：市立枚方市民病院、高槻赤十字病院
兵庫県立成人病センターなど
1998年 大阪医科大学周産期センター助手
2004年 大阪医科大学婦人科病棟医長
2006年 医療法人加藤産婦人科院長
2007年 医療法人琢生会

スタッフによるマタニティダイアリー

嬉しいことに、毎年のように多くの職員が妊娠し、これまでに20人以上のスタッフの出産がありました。当初はスタッフの要望もあり、スタッフマタニティブログを掲載していました。時が経ち忙しさの中、いつの間にか休止していました。

当院では現在もにぎやかなことに、助産師のうち3人が妊娠しています。また全員が、お決まりのように当院で健診、出産する予定です。いつも分娩予約が早々にいっぱいになり近隣の皆様にはご迷惑をおかけしております中、当院職員によりさらに予約の枠が狭くなっており、誠に申し訳ありません。うちが食堂なら「まかないは他所で食べてきて」と職員に願うのですが、出産という人生に何度もないことで職員自身に「ここでお産したいです」とお願いされれば仕方ないところです。

マタニティブログ 黄ver.3

『産まれました!』

お産は十人十色。似た経過をたどる人はいてもまったく同じ人はいません。

でも、お産に向けて心と身体の準備をすることはとても大事だと改めて感じました。

私の場合、心の準備は周りも巻き込んでいい雰囲気を作れたと思いますが、身体の管理ができていなかったように思います。

その経験を踏まえて、育児休暇から復帰したあとにはみなさんに寄り添える助産師でありたいと思いました。少しお休みをいただきますが、これからお産を迎えるみなさんが、無事元気な赤ちゃんに会えるよう、願っています!!



他院の先生からは「職員はなかなか自分の職場で産むことはないものだ」と聞くのに、数多ある産婦人科からわざわざ表も裏も知り尽くした自分の職場を職員みんなが選んでくれます。

お腹の大きくなった助産師同士が「私、患者さんに接していても、なかなかお腹が大きいことを言ってもらえない。きつと妊娠じゃなくてデブって思われてるんやわ(笑)」「いやいや、多分妊娠だと思ってんだけど、万が一違った時に寒いから遠慮してくれてるんやわ」と案じておりました。そんなこともあって、3人の助産師の妊婦からの要望もあり、ブログを再開することとしました。

潮崎助産師のマタニティブログ vol.6

『無事に出産しました』

わたしのパースプランは「赤ちゃんを応援しながら出産したい」と、「笑顔で赤ちゃんをむかえたいので笑わせてほしい」とことだったのですが、出産の日は、院長先生や久永師長さんや信頼できるスタッフがたくさん居てくれて、パースプラン通り、痛みに悶絶する私を笑わせてくれました(^^) 分娩室でも、声をかけてもらったおかげで最後まで赤ちゃんの応援ができました。

最後は赤ちゃんの心拍が下がっていたので、早く産んであげなければと無我夢中でしたが、ババが蹴ってくれたお産のビデオを見返すと、自分で覚えている主観的な印象とはまた違った客観的な視点からも振り返ることができて、とても温かい気持ちになりました。



神田マタニティクリニックで出産した当院の医療スタッフ(退職者含む)

当院で出産した医療スタッフ

3人出産: 佐藤Dr、森永MW
2人出産: 川口MW、坂口MW、黄MW、黒木MW、角野NS
1人出産: 島津Dr、潮崎MW、松田MW、宮本MW、上平NS
(医師: Dr 助産師: MW 看護師: NS と略)

スタッフブログ <http://blog.kanda-mc.com/>

あとがき

この10周年誌をご覧頂きまして誠にありがとうございます。当院で出産された患者様がこのクリニックの歩みに接して、今まで以上に当院に愛着を感じていただけたら嬉しく思います。一方、これからどちらで出産されようかと考えられている方におかれましては、施設選択の参考にしていただければ幸いです。

皆様のおかげで、吹田市と豊中市の市境いで駅から離れた所にある小さな産院が着実に実績を伸ばし、今や吹田市および豊中市で一番たくさんの分娩数を扱う施設となりました。その理由を私ども当事者では推しはかりかねますが、責任者である私がこれまでに特に気をつけてきたことについて補足して解説したいと思います。

第一に徹底した情報開示に努めてまいりました。分娩という狭い密室での医療は、現場での医療判断が適切かどうかによって赤ちゃんの命が左右されます。小さなクリニックでも大きい病院でも、最後は担当した医師とそれに関わるせいぜいもう一人か二人の医師の即時の判断力が問われます。医療は密室で行われており、何が起きているのか患者サイドはわからなくて戸惑うこともあろうかと思えます。我々はどんな時も、最善の医療を提供しその状況説明に努めますが、それにとどまらず、分娩時、赤ちゃんが出生する際の動画を可能な限り撮影し提供しております。このことは、大切な思い出の記録という側面のみならず、患者様が適切な医療を受けることができたかの大切な記録としても提供しており、究極の情報開示であると考えています。密室での動画を提供できることこそが、我々が提供する医療に対する自信の表れであるとも言えるでしょう。実際、分娩時の動画を撮影し提供されている分娩施設はほとんどなく、若い医師や助産師が研修をしている病院では特に難しいと考えられているようですが、近年、ドライブレコーダーが浸透している如く、分娩においても広がっていくものと考えております。もちろん、他院が明日から同じことを始めることは難しくないでしょうが、10年間トラブルなく続けることは簡単ではありません。我々はこの10年間8000例以上の分娩に対して、正確な診断のもと帝王切開や急遂分娩を確かな技術で無事に実施してきたことが一番の誇りです。これまでは過去の医療実績をHPなどに掲載せず不言実行の精神で過ごしてきましたが、10周年を迎えて振り返った時に、手前味噌ゆえ気恥すかしきもありますが、有言実行こそが患者さんの漠然とした不安を解消するためには大事であろうという思いにあらためられました。今回の10周年誌で医療実績を表明したことを機に、今後ホームページで当院の医療実績のページを設け随時更新していく予定です。

次に、当院のスタッフが妊娠すると当院で出産していることはマタニティブログで報告させていただいていますが、当院を内側から専門家として知り尽くしているスタッフ(助産師、医師やその家族)が同じ職場の仲間の前で分娩するということは多少の気恥すかしさがあるものです。それにもかかわらず当院のスタッフが分娩施設を選ぶ際に、当院で産みた

いと選んでくれていることは、当院の医療内容が内部からも評価され信頼されているからであり、私自身も施設責任者冥利に尽きることと感じております。

他には、特別な経歴を持つ自前のシェフによりコストカットをしない食事を提供すること、シャトルバスや大きな駐車場で通院しやすいこと、平日夜診や土曜の午後診など患者さんの利便性を優先した診療体制であること等、当院の母子ファーストの伝統を維持しながらさらに高めていけるよう努力してまいります。

当院が無事に日々の診療を続けていける大前提として、近隣の多数の優れた高次医療施設との連携により支えていただいていることは言うまでもなく、近隣の病院の先生や関係者に対しては感謝の念が絶えることはありません。

10年前に私がこの医院にきた時に望んでいたことは、多くのスタッフ、近隣病院の先生方や関係者の支えもあって、概ね実現できてきたと考えております。一方で、私自身がむしろに目の前の産科医療に取り組んで、あつという間の10年間であつたと感じておりますが、産科医療を取り巻く様々な問題を意識するようにもなりました。具体的には、少子化、産科医師の地域偏在、産科医療の集約化の必要性などです。吹田市は医療の特選に選ばれ、大学病院、循環器病センター、複数の救急救命センターなどが集中しております。まさに医療の地域不均衡を象徴するような状況にあり、大阪のベッドタウン、医療先進都市として今後も発展する宿命を担っていると考えます。そうした地域の医療体制の中で、ここまでは必要とされて来た我々が今後どういう役割を担うべく発展すべきでしょうか? 現時点では、プライベートクリニックとしての期待に応えながら、分娩予約の制限を解消するべく、増築や増床およびスタッフの更なる充実を図るべきであろうと考えております。

創設者の加藤明先生の時代に、当院で誕生されたベビーが大人になり、妊娠されて当院で2世代にわたり出産されているケースが最近多く見受けられます。付き添われる妊婦のお母様も久しぶりに訪問できた懐かしさで喜ばれています。一般に、子供達は成長しやがて出産して親となり子供を育てていくことで、子育てがいかに大変であるかを経験し本当の大人になっていきます。また、親の大変さを経験することで自分の親への感謝の気持ちを改めて実感し、家族の絆がより強くなっていきます。当院で出産されたご家族の絆が連鎖的に深まっていかれることは、私どもにとってもこの上ない喜びです。

私どもスタッフ一同は、皆様のご期待にお応えできるよう、これからも努力を続けてまいりますので、皆様からのご意見、ご指導を賜りますよう今後ともよろしくお願い申し上げます。



院長 神田宏治

これからの10年

この世に生を受けて生まれて来た赤ちゃんの表情、
それを迎えるお母様の安堵の表情、
お父様の嬉しそうで不安そうな表情、分娩に立ち会々と、
この世の幸せが凝縮した瞬間にいつも心を打たれます。
どのお母様、お父様においてもみずみずしくほとばしる喜びを
それぞれ最高の表情で表され、
あふれだす感激に私たちも心地よく飲み込まれていきます。
ハードな仕事のようにですが、
それ以上にエネルギーをいただいて、
私たちはいつも皆様を笑顔でお待ちしております。



コウノトリ

豊岡市にて
撮影者 神田宏治

これからの10年

To the next 10 years